

自尊感情暴力理論 ～人に向かう暴力の場合～

金 香百合 (HEAL・ホリスティック教育実践研究所所長)

前回は人が生き生きと生きるために必要な自尊感情（セルフエスティーム）のことを紹介しました。自尊感情が高くなると差別や偏見も少なくなり人権感覚が豊かになります。そのためにはからだの栄養とこころの栄養のふたつが必要でした。栄養が十分に足りていると人間はエンパワーします。エンパワーとは、人間に内在するさまざまな可能性が、人や社会とのつながりの中で、次々と芽生え、花咲いている状態です。パワーが内から湧いてくる状態ともいえます。これが自尊感情栄養理論でした。

さて、その一方で、栄養が不足するとどういことがおこるのでしょうか。人間は誰でもすばらしい可能性と同時に暴力性をももつ存在です。栄養不足が著しくなるとこの暴力性がでてきます。もちろん、人間の暴力性は栄養が足りている時にはあまり出てきません。栄養がもっとも奪われる厳しい状況のひとつは戦争と軍隊です。家ではどんなにやさしかったおとうさんもおにいさんもそこではどんどん暴力的にならざるをえないのです。さらに、今の日本社会のあちらこちらで戦争状況と似たようなことが起こっているのです。すなわち、家庭や職場や地域で極度の栄養不足が常態化していて、そこからさまざまな暴力がおこっています。暴力は①人（外）に向かうもの②自分（内）に向かうものがあります。今回はまず、人に向かう暴力をみていきましょう。

① 肉体的暴力……人をたたく、殴る、蹴る、こづく、つねる、首をしめる、殺す。人に向かう前に物に向かうときもある。たとえば、物を蹴る、キズつける、破壊する。など②言葉の暴力……大声でどなる。攻撃的、威嚇的、支配的、命令的、否定的なものい。

差別的な発言。など③精神的暴力……無視する、にらみつける、目を合わせない、仲間はずれ、かげ口をいう、無言電話、ストーカー行為。など④性暴力……セクハラ、性犯罪、痴漢行為、レイプ、買春。など⑤経済的暴力……経済的自由を与えない。働くことを阻害する。誰に養ってもらっているのかと脅す。など⑥社会的暴力……家族や友人との関係を遮断して孤立させる、など――。

このように、暴力とは肉体的なものはもちろん、それ以外にもたくさんあります。ではどのように人間は暴力を選択するのでしょうか。暴力の選択に大きな影響を与えるのは「暴力情報」です。われわれは自分自身のこれまでの生活の中で見聞きし体験してきた暴力の情報をもっています。加えてメディアの中に溢れている暴力によって多くの暴力情報をもっています。栄養不足の時にそうした情報を悪用してしまうことがおこります。これまでのにのべてきたような暴力が小さなレベルでは私たちの周囲で多発しています。

そしてすでに大きなレベルでの暴力事件までもが全国各地であい次いでいます。私はそれらの被害者の心身の傷の大きさや深さを考えると胸がしめつけられる思いです。その一方で加害者がここまで栄養不足のまま追い詰められていった状況を思い絶望的になります。

でも、だからこそ、すべての人に栄養がしっかりゆきわたり合うような人間関係や社会システムをつくっていくことをしなくてはいけないのだと痛感します。それが「人権の文化」を築くことだと確信しています。来年一月にセルフエスティーム研究会を開催します。詳細は私のホームページで。

<http://homepage3.nifty.com/kimrin/>

そうぞう

9

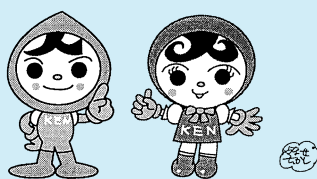
2004.9*No.10



全国一斉「女性の人権ホットライン」開設

人権擁護委員は、夫・パートナーからの暴力や職場等におけるセクシャル・ハラスメント、ストーカー行為といった女性をめぐる各種の人権問題に積極的に取り組んでいます。

その一環として、「女性の人権ホットライン」を開設して相談に応じてきましたが、今回「女性に対する暴力をなくす運動」期間中（11月12日～25日まで）、全国一斉相談日を開設し専門の相談員がご相談をお受けします。一人で悩まずにお気軽に電話をおかけください。



「人権イメージキャラクター
人KENまもる君・人KENあゆみちゃん」

日 時	11月21日(日) 午前10時から午後5時まで
電話番号	女性の人権ホットライン電話番号 06-6942-1238
相談員	大阪府人権擁護委員会連合会の人権擁護委員 (女性の人権問題に詳しい人権擁護委員が 担当します。)

